

特定外来生物



アライグマについて

① アライグマによる被害

アライグマは北米原産の野生動物で、日本では昭和50年代にペットとして多く輸入されました。しかし、成獣となり飼いきれなく野外に放たれたり、手先が器用なため逃げ出し、また繁殖力が旺盛で農作物や家屋へ侵入する等の被害が深刻化するとともに、生態系への悪影響があるため、平成17年に外来生物法で特定外来生物に指定されました。

アライグマは日本では天敵がいないため増加率が高く、短期間に急増します。

② アライグマの特徴

在来種のタヌキやアナグマと似ていますが、アライグマは、①尻尾がしましま ②白いヒゲが目立つ ③5本指の手足などで見分けることができます。水辺の森林地帯を好みますが、農耕地や市街地まで多様な環境に生息します。

③ 県内のアライグマ生息状況と防除対策

平成30年度は大分市及び中津市、日田市を中心に665頭が捕獲され、令和元年度は県内全域で最多の957頭が捕獲されました。生息数は確実に増加しており、早期の防除が必要です。

県内市町では、外来生物法に基づくアライグマ防除実施計画を策定し、行政機関、地域住民の方々等が連携した防除体制の構築に取り組んでいます。

防除を有効に実施するためには、アライグマの捕獲従事者の確保が必要です。捕獲従事者となるためには、防除講習会を受講し、適切な捕獲と安全に関する知識や技術を有する必要があります。詳しくはお住まいの市町村にお尋ね下さい。

大分県 捕獲頭数	年度	28	29	30	R1
	頭数	310	469	665	957

④ 県民の皆さまへ

アライグマに関する情報がありましたら、お住まいの市町村又は大分県自然保護推進室までご連絡ください。

平成30年～令和2年度

大分県北西部アライグマ防除推進業務

大分県事業委託先：特定非営利活動法人おおいの環境保全フォーラム

① 業務の目的

本業務では、「地域協働体制づくり」、「先進的捕獲方法の普及」、「広域連携の推進」等を主眼に、アライグマの生息が確認されている大分県北西部において、防除講習会及び捕獲調査等を実施し、当該市町や地域住民等と連携してモデル的なアライグマ防除を推進する。

② 実施場所

大分県北西部（中津市、日田市、宇佐市、九重町、玖珠町）

③ 業務内容

- 説明会及び防除講習会の実施
- 防除の支援
- DNA分析
- 捕獲調査
- サンプルの収集
- 生息分布マップ作成（アライグマ防除管理システム）



大分県生活環境部自然保護推進室

〒870-8501 大分県大分市大手町3丁目1番1号 TEL：097-506-3022/FAX：097-506-1749

大分県アライグマ防除管理システム

受託研究先：大分大学減災・復興デザイン教育研究センター

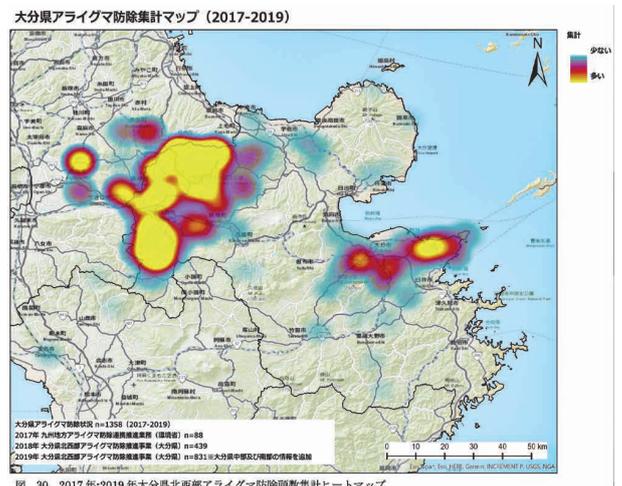
(1) 整備の目的

本業務では、平成29年度環境省九州地方環境事務所による調査結果を加え、平成30年度からの大分県による県北西部を対象としたGISによるアライグマ防除に関するデータベースの構築を図り、インターネットによる公開システムを利用し、今後の生息及び分布状況を予測する基礎データの分析として活用する。

(2) 捕獲頭数の地理的位置と表現方法

自然環境保全基礎調査に用いられる「標準地域メッシュ」に基づく三次メッシュ領域に含まれたアライグマ捕獲情報を集約し、三次メッシュコードをキーとしてデータベースを構築。(三次メッシュは経度差45秒、緯度差30秒の範囲で、大きさは1km×1km)

一方で、アライグマ分布状況を巨視的に把握するため、三次メッシュに含まれる領域データを累計し、二次メッシュとして表している(二次メッシュは経度差7分30秒、緯度差5分で、大きさは10km×10km)



(3) 主題図の作成

平成29年度環境省九州地方環境事務所調査、平成30年度からの大分県北西部事業で実施したアライグマ防除(捕獲)及び市町村からの防除情報を追加したデータを三次メッシュ単位でデータベースを作成し、主題図を作成。主題図では主に防除(捕獲)したアライグマの生態情報及び個体分析の結果を三次メッシュ又は二次メッシュとして表示。また、ミトコンドリアDNAは中心点をパイチャートにより表した。

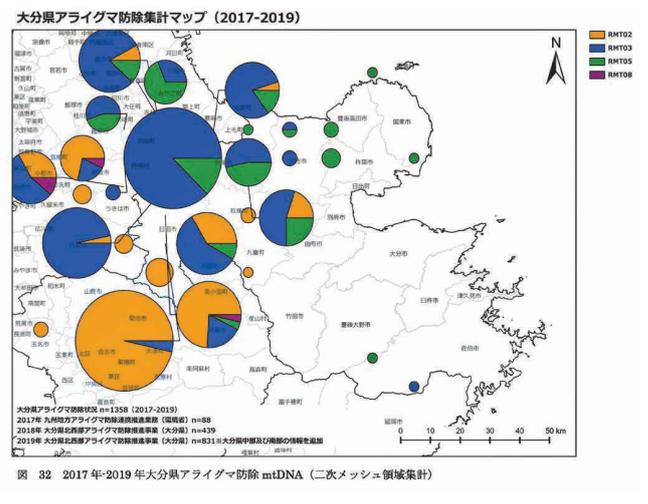
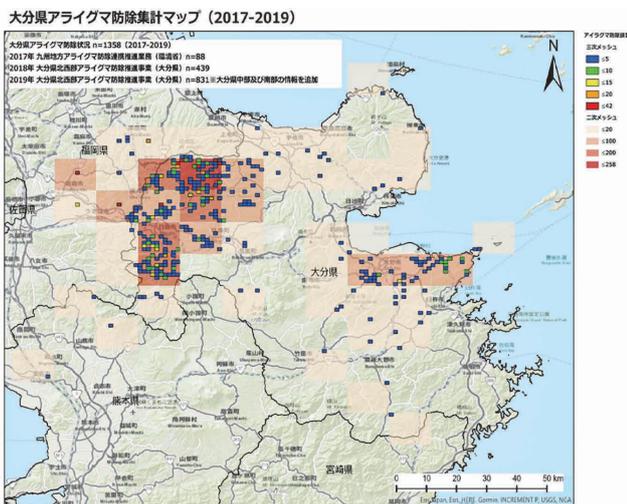


図 29 2017年-2019年大分県北西部アライグマ防除頭数集計

図 32 2017年-2019年大分県アライグマ防除 mtDNA (二次メッシュ領域集計)